



年間を見通して

各種調査等の活用の仕方を考えましょう！

©岡山県「ももっち」

授業研究と関連付けて調査結果を活用することで、「**検証・改善する**」サイクルをより短いサイクルで回すことができます。以下に、各種調査等を活用して、取組の成果を確認する視点を紹介します。

お知らせ

注目!

今年度から全国調査の質問調査がCBT化されたことにより結果を**すぐに確認**できるので、昨年度からの取組を検証し、今年度の見通しを今からもつことができるね。



全国調査の質問調査の結果の確認方法

【小学校】調査マニュアル（小学校）P.81を参照

【中学校】調査マニュアル（中学校）P.68を参照

※中学校は学習eポータルによって、確認できるものが異なります。

視点① 各学校において調査等の活用の仕方を検討する



学力向上

家庭学習充実が本校の課題でした。それを測る質問項目は、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。」でしたね。〈**課題の明確化**〉

今年度の全国調査の質問調査結果で確認すると、昨年度から改善が見られましたね。どの取組が効果的だったか部会で検証してください。〈**現状・変容の把握**〉



管理職

今年度は、授業と家庭学習との関連をより強くできるように、「次時の見通しもつことができること」を共通実践として授業研究を行いましょう。6月に提案授業を行いますので、学校全体で取組を進めて、子どもの学ぶ力を伸ばしましょう!! 〈**短い改善サイクル**〉



研究主任

視点② 各種調査等を意図的に関連付け、年間スケジュールを考える

年間を通して、「現状・変容を把握」し、改善に向けて取組を見直す機会が学校にはたくさんあります。各種調査の時期や内容を**関連付け、児童生徒や学校全体の変容を見る**ことで、的確に実態把握ができたり、課題がより明確になったり、より効果的な改善サイクルを回したりすることができるのではないのでしょうか【別添資料も参照してください】。

